

平成15年度第10回理事会議事概要

日 時 平成15年12月19日(金) 13:30～14:20

場 所 特別会議室

出席者	理事長	田 中 潔
	理事(企画・総務担当)	藤 原 敬
	理事(林業・木材産業研究担当)	池 田 俊 彌
	監事	今 村 清 光
	監事	井 上 徹 雄
	企画調整部長	石 塚 和 裕
	総務部長	周 藤 眞
	事務局(企画科長)	藤 井 智 之
	事務局(代理 総務課長補佐)	三 宅 芳 博

欠席者 理事(森林研究担当) 桜 井 尚 武

1. 開会

2. 議事

(1) 一般職員の採用内定について(報告)

(周藤総務部長)

<資料1: 職員の採用内定について(報告) により説明>

(田中理事長)

報告のあったとおりで了解する。

(2) 研究職員選考採用の公募について

(石塚企画調整部長)

<資料2: 平成16年4月研究職(選考採用)の募集についてにより説明>

(今村監事)

選考採用というものが欠員が出来た時に即戦力で穴埋めするといった感じで、基本的な全体のニーズに対する考え方が見えないが、このあたりはどうなのか。任期付採用を今後どうするのかということも含めて、人事管理上の基本的な考え方を研究上の方向性も含めて明らかにしていく必要があるのではないかな。

(石塚企画調整部長)

いろいろと情報を集めながら、それぞれの分野の必要性に応じて採用している状況ではあるが、採用する者や退職する者を長いスパンで見ながら、基本的な考え方を整理する必要がある。

(今村監事)

難しいことかもしれないが、長期的視点に立った研究分野のウェイト付けといった基本的な方向性がないと、それを問われた時に対応できずに研究所の真意を問われることにもなり、やはりきちっとしておいた方が良いと思う。

(井上監事)

採用に関しては、長期的な研究方向を踏まえた人事管理上の一環としてやっていると思う。選考採用では、即戦力を期待してかなり専門性を持った者を採用することになると思うが、今後において任期付採用を検討する場合、納得の得られるよう十分な配慮が必要となるだろう。

(石塚企画調整部長)

穴埋め的に見えるが、定員管理上は、その分野に人が減ったから採用するといったことはしていない。必要な分野をたてて、そこに必要な者をリクルートして選考採用をするというのが今の流れである。

(田中理事長)

I種、選考採用、任期付とバランスよくやっていかなければならないが、以前のようにI種を何人が採用して、後で分野を考えながらやるということではなく、今後は、I種でも選考採用同様に分野を先に示して採用していくことになる。

(今村監事)

大学でも既にやっていることだが、今後の研究者の流動化を考えると、任期付など人事管理上の基本的な考えをしっかりとしておくことが大切だと思う。

(田中理事長)

いろいろな課題については、監事の御意見も踏まえて今後検討していきたい。研究職の採用については、説明のあったとおり進めることで了承する。

(3) その他

- ・ 国有林野の管理経営に関する基本計画の改正について

(藤原理事)

国有林野の管理経営に関する基本計画に関するパブリックコメントについては、原案に対する意見として、38者、157項目が提出されたと聞いている。森林総研としても2項目提出したところである。同計画改正案は、12月8日の林政審議会に諮問され、改正案どおり答申された。国有林は森林総研としても重要な位置付けとなっている。原案では保護林など限られた森林を学術フィールドとして提供するとしていたところを森林総合研究所からの意見を踏まえ、少し幅広い記述にし、単に情報提供するだけでなく、より積極的に関与し、フィールドの適切な管理に努めるという書きぶりになっている。

(今村監事)

限られた試験研究の中で、伐採もできるようになったということか。

(藤原理事)

そのとおりである。

(田中理事長)

国有林野に関する件については、報告のあったとおりで了解する。

次回第11回の理事会は1月23日（金）を予定する。

3. 閉会